



▲いずみ保育園



○ 小関 祥子 ○

◆子どもの貧困と「子ども・子育て新システム」について

●「子ども・子育て新システム」で公的保育はどうなるか。

◎**「本来の意味での「幼保一体化」にはならないのでは。国と自治体の責任がなくなり、保育行政の解体につながるのでは。」**

◎**「答保護者が施設と直接契約をする。契約に対しては行政の強い関与が必要であると明記。サービスの時間に応じて応益負担とする部分もある。保育園と幼稚園を一体化した総合施設を目指す。市民に満足してもらえような保育体制をつくっていききたい。」**

◆地域経済活性化について

●地域経済活性化のために、中小企業振興基本条例・公契約条例を制定しては。

◎**「求人倍率と雇用形態の構造変化について、市役所で非正規雇用が増大し、自営業者・家族従業者が自分の商売だけで食べていけない実態について、市はどう考えているか。」**

◎**「非正規雇用が増大する傾向。女性の半分以上が非正規雇用という実態。市内個人事業者数は、この5年間で15・8%減少。人口も減っており、県外・市外からの転居促進の努力が必要。」**

◎**「TPPで地域経済が崩壊すると言われているが、安い農産物が入ってくると耕作放棄地がますます増えるのでは。営農組合等の支援や「里山保全」など林業との共存はできないか。」**

◎**「鶴里町で営農組合準備会を立ち上げ。県が導入を検討している森林・環境税で、里山林の整備・利用促進施策に助成。」**

◎**「豊の表替え・外構工事などもっと簡単な「住宅リフォーム助成制度」を、市の制度として「地域経済活性化」の目玉にしては。」**

◎**「住宅リフォーム助成制度の導入は、多治見市・瑞浪市も創設の予定がなく、今のところ導入する考えはない。」**

《第5回定例会一般質問》



○ 山内 房壽 ○

◆台風十五号の水害について

◎**「駅東踏み切り付近の浸水時の、市の対応状況をお聞かせ下さい。」**

◎**「消防団、消防署の職員及び地元の住民の方々に土のう等の対応をしていただきました。」**

◎**「今回の氾濫の原因は。」**

◎**「今回の降雨では、伊野川の水位がこいで橋の橋げた以上になっており特殊堤がありますが、堤のない部分から道路に流れ出たものと考えております。」**

◎**「今後の対応は。」**

◎**「伊野川につきましては岐阜県の管理になっております。今回の浸水に関しまして多治見土木事務所も確認していただいております。今後の検討を県に要望している段階であります。」**

◎**「削って川底を深くする事が出来ませんか。」**

◎**「JR線路の下の方の河床の断面がないという状況は確認できます。今後の課題を含めて県の方へは対策を講じていただくよう要望いたします。」**

◎**「今回の浸水箇所の付近に緊急に土のうが確保できる対策は。」**

◎**「土のうの砂は各町指定の場所に設置してありますが、今回の浸水箇所の近くで場所の確保が出来れば、事前にその場所へ置くような手だては出来るかと考えております。」**

◎**「深沢川の五斗時地区の浸水に対する今後の対策をお聞かせ下さい。」**

◎**「深沢川につきましては陶芸村から五斗時北橋までの区間で道路が冠水しました。今後の対策は、現況調査を行い、二十四年度に改修計画を立てて検討をしていきます。」**

◆市有地について

◎**「下石工場用地はいつ、どのような計画で開発されたのか。」**

◎**「平成六年地場産業の高度化等の目的で市が開発公社に先行取得を依頼し民間により開発された土地を十一億五千万円で購入しました。」**

◎**「平成二十二年に市が開発公社より購入した目的をお聞かせ下さい。」**

◎**「地場産業の複合化・税収・雇用確保の面から企業誘致を進めていくことを視野に入れ開発公社から六億五三四三万円が取得いたしました。」**

◆災害時対応について

◎**「災害時、乳児のミルク等の確保は。」**

◎**「災害発生時のミルク等の備蓄はありませんが、市内三企業と緊急時・応急生活物資供給等の協定の中で確保していきます。」**



宮地 順造

◆土岐市立総合病院について

問 土岐市立総合病院改革プランについて

答 総務省の指導によると病床利用率は少なくとも70%以上が望ましいが、目標値は個々の病院の状況に応じて適切に設定したもので、土岐市立総合病院としては、目標値を平成23年度57・1%、24年度60%、25年度61・4%に修正する。

70%達成については、なかなか厳しい状況ですが、達成に向けて努力して行きたい。

各科、診療科ごとの収支については、把握していない。

職員給与対医業収益比率については、一般公立病院の場合、55%くらいが一つの基準、それ以内が望ましいと考えている。

問 将来の総合病院について

答 看護師確保については、土岐市独自の奨学金制度を運用しており、現在36名の看護学生が利用し、来年度以降さらに多くの看護学生に利用頂くよう予算確保、並びに看護学校、

准看護学校、看護大学、高校などと連携を図っていきたい。

医師に関しては、現在、常勤医師42名、非常勤医師は研修医7名を含め36名で、研修医は毎日出勤、非常勤医師は、週1日が24名、週2日が2名、週3日が1名で、2週間に1日が2名です。不足した科の医師確保については引き続き募集努力していく。

1950年に施行された完全看護制度は、家族や付き添いによって行うもので、1958年から基準看護制度に改められ、土岐市立総合病院も以前は、看護体制10対1だったが、現在は7対1となっている。

改革プランの数字は、大変厳しい数字であると認識しているがそれに向かって努力する。



▲新設された総合病院救急外来待合室

《第5回定例会一般質問》



塚本 俊一

◆防災士育成について

問 土岐市地域防災計画の中で、自主防災組織の育成と強化を図るため防災士の知識・技術の向上を指導するリーダーの研修が示され、自主防災組織の活動を充実させるとしております。防災のリーダーとして防災士という資格があり、土岐市において防災士の育成を考えるべきではないか。

答 自主防災組織のリーダーが、町内会の役員が多く、継続的な活動がしにくいという状況があり、地域住民が継続的に地域の防災活動の担い手になることが重要であり、防災士の育成は、その一つの方法であると考えております。

問 防災士の資格取得をめざす市民の方に、資格取得の経費を補助してはどうか。

答 防災士の資格取得の経費の助成について早急に内容を検討いたしまして、新年度予算に計上する方向で考えてまいります。

問 現在、土岐市に防災士は、何名登録されているのか。

答 平成23年11月末現在で8名です。

◆期日前投票の宣誓書について

問 投票所入場券の裏に宣誓書の様式を印刷し、自宅などで必要事項をあらかじめ記入することで障がい者の方々がスムーズな投票ができないか。

答 期日前投票の際に提出する宣誓書について、平成23年2月1日付で総務省より、選挙人が事前に記載することができるよう、例えば投票所入場券の裏面に様式を印刷するよう努めることという通知がだされておりました。導入事例を検証し、導入効果の研究を行い、改修費用等を考えて、今後検討を進めてまいります。

◆プラズマリサーチパークのC街区の土地利用について

問 土岐商工会議所のグルメ街構想の提案が12月6日断念する旨の書面が提出されました。大変残念ですが所見をお伺いしたい。

答 平成23年5月に会議所から計画をお聞きし、同じテーブルで市としても議論をしてきましたが、行政側の考え方と民間側の考え方が、うまく理解されずにきってしまった経緯の中白紙と言う結果になってしまった。

問 今後のC街区利用の進め方は。

答 恒久的な利用方法が決まるまでは、提案型のイベント広場などに活用していきたいと考えています。